

日蓮宗 常栄山

本照寺だより

唱題リトリート

4月29日の祝日。日蓮宗の立教開宗にちなんで初めて「一日唱題リトリート」を開催しました。立教開宗とは、日蓮聖人が千葉県の清澄寺において法華経を弘める誓いを立てられた聖日です。

9時半〜17時、その間は沈黙を保って修行に専念します。そのうち4時間は純粋にお題目（南無妙法蓮華経）を唱えるだけの時間です。このとおりの厳しい日程にも関わらず7名の方が参加してくださいました。皆さま、心身ともに辛かったようですが、各々



修行の諸注意を聞く参加者

が、ただの我慢大会とは異なる修行の味わいを感じていただけようと思います。毎年行ってみたいと思いつくので、興味のある方は是非ご参加ください。



晴天の中、竹林でタケノコ掘り

タケノコ掘り

今年も4月中旬に「花まつりとタケノコ掘り」を行い、定員いっぱい100名超の方にご参加い

第114号
 厚木市下古沢133
 TEL・046-247-1156
 FAX・046-247-1156
 振替・0230-7-35749
 (加入者名・本照寺)
 発行所 須藤教裕
 本照寺・須藤教裕
 携帯090-9151-6438
 honshou49@i.softbank.jp

●ポスターの大きさが悩み
 本照寺では開催する行事を広く知ってもらうために、大きなポスターを県道63号線に掲示しています。

- ① 風に負けない強度 (大きいほど風を受けやすい)
- ② 雨に強い耐水性
- ③ 紫外線への耐性 (夏の日差しは過酷)

副住職のDIY奮闘記-ポスターパネル編①



プラダンのポスターパネル

④なるべく安いこと
 この4つを満たす既製品を探したのですが、ちょうどよいものが見つかりません。それでは自分でなんとかするしかない……。そこからDIYも視野に入れた試行錯誤が始まりました。

① プラダン
 まず試したのは、プラダン(プラスチック段ボール)です。ホームセンターで手軽に買えて、軽量・耐水・安価と三拍子そろった素材。

副住職のコーナー

最初は「これはなかなかいいかも」と思いました。ところが、弱点がありました。素材のポリプロピレン(PP)樹脂は、紫外線に弱いのです。少しでも耐性を持たせようと黒色を選んだのですが、使うことに目に見えて傷みが進んでいきます。

さらに深刻だったのが、強風です。プラダンは軽く柔らかいので、春の嵐や夏の台風のたびにパネルが大きくたわみ、「このまま吹き飛ばしてしまうのでは」と肝を冷やしたことが何度かありました。軽さは長所でもあり、弱点でもあったのです。

朝の詩

息子の一言
 奈良県橿原市
 松田てる子 97

一週間に一回
 息子が来る
 言うことが決まっている
 風邪ひきなや
 こけたらあかんで
 それだけ言う
 さつさと帰る
 車 気いつけや
 こちらも同じことを言う
 その一週間が
 待ちどおしい

最期のおぢやめ

宇都宮市
 松井静子 82

先代の三平師匠は
 麻酔からさめたとき
 お名前は？と問われて
 「加山雄三でええす」
 と答えたそう
 先日 私も全身麻酔で
 胃カメラを飲むことに
 セクシー美女の名を用
 意したが 問われたの
 は 生年月日だけだっ
 た チャンスはまだあ
 るの世の入り口で
 問われたら じっくり
 と答えよう
 峰不二子です (産経新聞)

編集後記

「本堂に本照寺さんで良かった！」と、ご主人49日のお席でのお檀家さんの言葉。「何かあったのですか？」「ええ、何かあったのですか？」と、私。私の実家の菩提寺は葬儀のお布施、300万円なんです！「それは！」「私。家内の菩提寺で『墓じまい』をしようとしたら、お骨一人に檀家を離れる『離壇料』として70万円かかり、3人だから210万円支払うよと言われた！」「私それはそれは！3人の葬儀や法事でお布施も戴いたことではないに！恩を仇で返すなんて！」(本照寺は無料)「そもそもお布施は請求するものではありません。請求するということとは『料金』となり、結果『商売』となりますので『税金』を支払うべきです(宗教学者人としては無税ですが、住職も副住職も当然、給与に対する税金を支払っています。先日も「収入は3人(私と息子夫婦)で分けるのですか？」と聞かれ、全て無税だと思っていた方が...)」社会奉仕、社会活動もせず、商売屋となり下がった某寺院。あなた僧侶辞めてください。

お施餓鬼・お盆のご供養

■8月16日、午前9時から10時半過ぎまで先祖供養のための大法要「お施餓鬼」を執り行います。新盆を迎える方は必ず出席のもとご供養いたしたいものです。

■卒塔婆(そとうば)ご供養希望の方は同封の「払い込み用紙」を用いお申し込みください。払込用紙の通信欄に「先祖代々」や「00院00信士、信女」などと、どなたの卒塔婆を立てるのか必ずご記入ください。未記入の場合は先祖代々とさせていただきます。

■卒塔婆受取概ねの時間帯
 ▼法要直後・約午前10時40分
 村井四郎・高野健司・頼住清子・福住八郎(筆頭総代)

■昨年の卒塔婆が教本、本堂外縁に在ります。未だに



★今年も墓参用の花を「花美」さんが8月10日〜15日までご用意してさせていただきます。



まごころ込めて

ご埋葬
 おまかせください
 埋葬料 11,000円
 字彫代 38,000円

お墓のすべて
 ご相談ください
 ●花立交換 ●メン修理
 ●砂利交換 ●耐震化...

本照寺様 出入り石材店
 株式会社イシックス
 0120-011140

世界は今 日本に学ぼうとしている



前号では、日本人と欧米人の価値観や世界観の違いを書きました。それは、宗教観、即ち一神教と神道や仏教との相違に依っていると思いを伝えました。しかし今回は宗教的な洞察は避け、日本人独自の精神文化を社会人類学者、構造主義の創始者であるクロード・レヴィ・ストロース（実名、フランス、1908年10月28日 - 2005年10月30日）が日本を語ります。素晴らしい洞察ですので、前号と併せて読んでいただくと幸いです。

日本は人類の奇跡

私は長い時間をかけて世界中の文化を観察してきた。密林の奥で暮らす部族等々。そして彼らの営みを見つめ、その構造を解き明かすことに人生をささげてきた。だが日本という場所に足を踏み入れた時、私は初めて言葉や葉を失った。ここには他のどこにもなく、目に見えるものではない、何かがあった。

私は人類学者として世界の果てまで旅してきた。私はそれらを比較し、分析し、構造を探し求めてきた。だが現代という時代はその多様性を急速に失いつつある。グローバルゼーションという名の波が世界中を覆いつくそうとしている。どの街に行っても同じチェーン店が並び、同じ音楽が流れ、同じファッションが溢れている。人々は同じようなスマートフォンを手に持ち、効率性が追及され、速度が求められ、明快さが称賛される。曖昧なものは排除され、ゆつくりしたものや遅れていると見なされ、静けさは無価値とされる。

世界は一つの巨大な機械になろうとしている。その中で、多くの文化が消えていった。彼らの言語は失われ、彼らの儀式は忘れ去られ、彼らの知恵は記録されることなく消えていった。それは悲しいことだが、避けられない流れのように思われた。

食事の前に「いただきます」と手を合わせる それだけでいい

和を大切にす日本人

私はそこに、日本文化の本質を見た。見えないものへの敬意。名もないものへの感謝。誰も見ていなくても手を抜かない心。それは効率や合理性では測れない価値観だった。

日本人はよく空気を読むという。場の雰囲気を感じ取り、それに合わせて行動する。これは西洋的な価値観からすれば主体性がなく、自己を抑圧している批判されることがある。日本人自身もそれを弱点だと感じている人が多いようだ。だが、私は違うと思う。空

見えないものを大切にす心

ある春の日、私は京都の小さな寺を訪れた。観光客で賑わう有名な寺とは違う、名もない寺だった。山門をくぐると、時間の流れが変わった。都会の幻想が嘘のように消え去り、静寂だけが残った。

西洋では議論で意見をぶつけ合い、論破し、勝者と敗者を決める。それは明快で効率的かもしれない。だが同時に誰かを傷つけることにもなる。日本では対立を避けようとする。意見の違いがあっても相手を否定するのではなく、共通点を探そうとする。曖昧な言葉を使い、直接的な衝突を回避する。それは弱さではない。むしろ

関係性を壊さずに調和を保とうとする強さなのだ

私は世界中で数えきれないほどの争いを見てきた。宗教戦争、民族紛争、イデオロギーの対立。人々は自分が正しいと信じて相手を滅ぼそうとする。だが日本にはそういう歴史が少くない。もちろん、戦争もあった。争いもあった。だが他に比べれば驚くほど少ない。なぜか。それは日本人が和を大切にしてきたからだ。調和を乱すことを最も恥ずべきこととして来たからだ。

調和とは自分を殺すことではない。沈黙とは無力さではない。曖昧さとは逃げることではない。それらはすべて、

世界が必要としているもの

今、世界は大きな岐路に立っている。気候変動、格差の拡大。分断の深まり。人類はかつてないほど深刻な問題に直面している。そして多くの人が気付かき始めている。これまでのやり方ではもう立ち行かないのだ。

効率だけを追求し、成長だけを目指し、勝つことだけを考えた結果が、今の世界なのだ。今、求められているのは新しい価値観だ。だが、それは本当に新しいものなのだろうか。私は思う。日本が何千年も守ってきた価値観こそが、今の世界が必要としているものなのだ。

自然との共生。見えないものへの敬意。無常を受け入れる心。調和を大切にす姿勢。それらは古臭いものではない。むしろ未来を切り開く鍵なのだ。世界中でミニマリズムという生き方が注目されている。物を減らし、シンプルに生きる。それは日本の禅の思想そのものだ。マインドフルネスという瞑想法が流行している。今、この瞬間に集中し心を整える。それは日本の茶道や座禅で何百年も前から実践されてきたことだ。持続可能性という概念が今、叫ばれている。自然を破壊せず、未来世代のために資源を残す。それは日本の里山文化や、もったいないという精神に通じる。

それは小さなことを大切にすればいいの

朝、寺社の前を通りかかったら、立ち止まって軽く頭を下げる。それだけでいい。食事の前に「いただきます」と手を合わせる。それだけでいい。誰も見ていなくても、丁寧に仕事をやる。それだけでいい。相手の気持ちを想像してから言葉を選ぶ。それだけでいい。季節の移ろいを感じ、桜が咲く短い春を全身で味わい、散り際に美しさを感ずる心。それだけでいい。

それは小さな所作の一つに日本文化の本質が宿っている。それを続けることが文化を守ることなのだ。そして若い世代に伝えることだ。説教する必要はない。強制する必要もない。ただ背中を見せればいい。祖父母が何気なく手を合わせる姿。親が静かに掃除をする姿。それを見て育った子供は、自然とその心を受け継いでいく。言葉ではなく、所作によって。説明ではなく、空気によって。文化とはそうやって伝わっていくものだ。

「ごめんなさい」「ありがとう」「お先にどうぞ」「お陰さまで」。こうした言葉が無意識に口からこぼれる日本社会。これはまさに「文明の極致」である。クロード・レヴィ・ストロース（上記執筆者）再登場